

## 経緯

令和5年4月21日に、内閣総理大臣からこども家庭審議会に対し、こども家庭庁設置法第7条第1項に基づき、今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針及び重要事項等として、「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）」の案の策定に向け、具体的な事項の検討が諮問されたを受けて、こども家庭審議会こどもの居場所部会でこどもの居場所部会において〇回の議論を重ねた。

## 委員名簿

※50音順、敬称略、○：部会長

青山	鉄兵	文教大学人間科学部 准教授・国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 副センター長
安部	芳絵	工学院大学教育推進機構 教授
荒木	裕美	NPO法人ベビースマイル石巻 代表理事 石巻市子どもセンター 館長
今村	久美	認定特定NPO法人 カタリバ 代表理事
植木	信一	新潟県立大学人間生活学部 教授
宇地原	栄斗	NPO法人 Learning for All 子ども支援事業部 エリアマネージャー
大空	幸星	NPO法人 あなたのいばしょ 理事長
大竹	智	立正大学社会福祉学部 教授
小川	杏子	特定非営利活動法人 パノラマ こども・学校連携事業統括責任者
菊地	英一	東京都調布市子ども生活部児童青少年課 課長
菊池	真梨香	一般社団法人 Masterpiece 代表理事
光真坊	浩史	一般社団法人 全国児童発達支援協議会 理事
関戸	博樹	特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 代表
友川	礼	松山東雲女子大学人文科学部 准教授
成田	秀幸	独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 診療部長
○ 前田	正子	甲南大学マネジメント創造学部 教授
水野	かおり	一般財団法人 児童健全育成推進財団 企画調査室 参事
水野	達朗	大阪府大東市教育委員会 教育長
山本	昌子	任意団体ACHAプロジェクト 代表
湯浅	誠	東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

## 部会開催実績

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 第1回<br>(令和5年5月17日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の部会の部会の進め方について</li> <li>各種報告事項</li> </ul>   |
| 第2回<br>(令和5年5月31日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>委員ヒアリング</li> </ul>  |
| 第3回<br>(令和5年6月13日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体ヒアリング①<br/>(ユースワーカー協議会、全国児童館連絡協議会、一般社団法人TOKYO PLAY、全国学童保育連絡協議会、山口県こども食堂支援センター)</li> </ul> |
| 第4回<br>(令和5年7月14日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体ヒアリング②<br/>(全国児童発達支援協議会、特定非営利活動法人サンカクシャ、公益財団法人あすのば、アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ、豊中市)</li> </ul>   |
| 第5回<br>(令和5年7月31日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>こども・若者ヒアリング</li> </ul>  |
| 第6回<br>(令和5年8月9日)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの居場所づくりに関する指針の論点提示・協議①</li> </ul>  |
| 第7回<br>(令和5年8月23日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各論点について協議②</li> </ul>   |
| 第8回<br>(令和5年9月6日)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>各論点について協議③</li> </ul>   |
| 第9回<br>(令和5年9月22日)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの居場所づくりに関する指針（答申素案）について</li> </ul>   |
| 第10回<br>(令和5年10月6日)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの居場所づくりに関する指針（答申素案）について</li> </ul>   |
| 第11回<br>(令和5年10月20日) | <ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの居場所づくりに関する指針（答申素案）について</li> </ul>   |



居場所とは、**こども・若者本人が決めるものである。**  
そのため、こどもの居場所づくりは、**こども・若者の視点に立って行われることが重要**である。

## “居たい”

- 居ることの意味を問われないこと
- 信頼できる人、味方になってくれる人がいること
- 過ごし方を選べること
- ありのまま、素のままでいられること
- 誰かとつながれること
- 気の合う人がいること
- 安心・安全な場であること
- くつろげる環境が整っていること
- 居ただけ居られること
- 助けてほしいときに、助けてくれる人がいること
- 誰かとコミュニケーションできること
- 話を聴いてくれること
- 別の目的をもった人がいても、同じ空間にいられること
- 一人で居ても気にならないこと

## “行きたい”

- 自分を受け入れてくれる誰かがいること
- 身近にあること
- 気軽に行ける、一人でも行けること
- お金がかからずに行けること
- 誰でも行けること
- 行くきっかけがあること  
(必要に応じて、こども・若者へアウトリーチで関わること)
- 自分と同じ境遇や立場の人がいること
- いつでも行けること  
(こども・若者自身が居場所に行く時間を選べること)

## “やってみたい”

- いろんな人と出会えること
- 好きなこと、やりたいことができること
- 自分の意見を言える、聴いてもらえること  
(自分の意見が反映されること)
- 一緒に学ぶ人、  
学びをサポートしてくれる人がいること
- いろんな機会があること  
(興味や希望に沿ったイベントがあること)
- 未来や進路を考えるきっかけがあること
- あこがれを抱ける人がいること
- 新しいことを学べること
- 自分の役割があること

# 利用対象に基づいたこども・若者の居場所の種類(分類)

ユニバーサル/ポピュレーション

対面 (リアル)

仮想 (オンライン)

ユニバーサル/ポピュレーション：全てのこども・若者を対象とする居場所

児童館、公民館、図書館 放課後児童クラブ\*  
放課後子供教室、子ども会、スポーツ少年団  
公園や校庭、プレーパークなどの外遊び  
ユースセンター/青少年拠点 など

オンラインでの体験活動等

混在型：両者が混在している居場所

フリースペース こども食堂  
校内カフェ 学習・生活支援の場 など

オンラインの居場所

ターゲット/ハイリスク：特定のニーズを持つこども・若者を主な対象（利用者の制限有）とする居場所

放課後等デイサービス  
若者シェルター 児童育成支援拠点事業  
特定のニーズを抱えたこども・若者向け施設・場  
↳ 障害、性的マイノリティ、ケアリーバー、外国籍など

オンラインの居場所  
(オンライン相談支援等)

など

ターゲット/ハイリスク

\* 放課後児童クラブは保護者が労働等により昼間家庭にいないこどもを対象としており、その意味ではターゲットに分類できるが、約139万人（令和4年5月現在）の利用者という規模から考え、ポピュレーションに分類

## こども・若者ヒアリング実施概要 ～あなたが思う「居場所」は？～

<p><b>テーマ</b></p>	<p>あなたが思う「居場所」は？ （「こども家庭審議会こどもの居場所部会」のなかで「こども・若者からのヒアリング」として開催）</p>
<p><b>担当省庁</b></p>	<p>こども家庭庁</p>
<p><b>開催日時</b></p>	<p>令和5年7月31日（月） 15:20～17:30ごろ</p>
<p><b>開催場所</b></p>	<p>東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング21階、22階（こども家庭庁内会議室）</p>
<p><b>参加対象者</b></p>	<p>ふらすメンバー全体</p>
<p><b>参加人数／グループ数</b></p>	<p>23名／5グループ</p>
<p><b>主なヒアリング内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分にとって居場所だと感じる場などがあります（います）か？ また、それはどんな場ですか？</li> <li>• その居場所では、どんな気持ち（感情）になりますか？</li> <li>• その居場所に対して、もっとこうであってほしいなどありますか？</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

居場所だと感じるひとからのコメント

居場所だと感じないひとからのコメント

<ul style="list-style-type: none"> <li>家族との空間だから<b>本音を出せる</b>ところだと思っている。(中学生)</li> <li><b>一人になれる時間</b>があるのが家だから、家にはやすいという人は多いだろうと思う。(小学生～高校生)</li> <li>家族とは生まれたときから一緒に、家は比較的<b>長い時間を過ごすから</b>。(小学生～高校生)</li> </ul>	<p>家 (家族)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親が仕事でイライラしていると、<b>家にいると私にイライラが刺さってくる</b>から、そういうときはいづらくなる。(小学生～高校生)</li> <li>一般的に家や学校は「居場所」とされているが、<b>虐待やいじめを受けている人たちにとっては「居場所」ではなくなる</b>。(高校生・大学生)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校で友達と遊んだりしているときや、話したりしているときが好き。(小学生)</li> <li><b>部活の友達やクラスメイト、先輩・後輩・先生と話すのが好き</b>だから。(中学生)</li> <li>学校の先生・カウンセリングの先生には<b>秘密が言いやすい</b>。(小学生)</li> </ul>	<p>学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の中にも合う先生、合わない先生がいる。(小学生)</li> <li>苦手な人が同じクラスにいると「居場所」だと感じなかった。(中学生)</li> <li>学校だと<b>先生とか友達に気を使わないといけない</b>から、家よりは気持ちがリラックスしていない。(小学生～高校生)</li> <li>学校だと、<b>私と同じアニメやゲームが趣味の子は少数派</b>だった。(大学生・社会人)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と近い趣味の子と会う場はSNSがほとんど。学校だと、私と同じアニメやゲームが趣味の子は少数派だった。<b>同じ趣味の子とは話が合うため、安心感があり、「居場所」になる</b>。(大学生・社会人)</li> <li>SNSは、複数アカウントを使い分けることができる。見ないという選択肢もふくめて、<b>場所の選択肢がいろいろあるのが強み</b>だと思う。(大学生・社会人)</li> </ul>	<p>S N S</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSは<b>匿名だから、言えないことも言えてしまう</b>。(小学生～高校生)</li> <li><b>知らない人からメッセージがきたりすると怖い</b>。楽しいところもあるけど反面は悪いところがある。そこはちゃんとわかって使わないといけないと思う。(小学生～高校生)</li> <li><b>直接悪口を言われるより、LINEで悪口を言われたほうが何倍も傷つく</b>という話を学校で聞いたりして、それならあまりSNSは使わないほうがいいのかなと思って、自分もあまり最近やらなくなってきた。(小学生～高校生)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校でも家でもない外部の大人、他校の中学生と話したりするので、<b>上下関係などあまり気にしないで自分の意見を言いやすい</b>空間だと思う。(中学生)</li> <li>課外活動だと、<b>共通の趣味があることや干渉しすぎず手助けしてくれる大人がいる</b>ことで「居場所」になった。(中学生)</li> <li>自分と<b>同じような意識を持ったひとが集まるため、年齢に関係なくいいことが言える</b>。(中学生)</li> </ul>	<p>課 外 活 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外活動などのプロジェクトだと期限がある。<b>抜けるタイミングを自分で選べず、代替わりという理由で抜ける場合もある</b>ので、こどもが主体的にいるかどうか決められる空間であってほしい。(中学生)</li> </ul>



居場所だと感じるひとからのコメント

図書館

- 静かで、本がよめる。(小学生)
- 静かにひとりで過ごすことができる。(小学生～高校生)



公園

- 安心する場所。(小学生)

オンラインの  
フリースクール

- 「推し」の話を、顔も名前も知らない人と話すことが楽しい。(小学生)

複合商業施設

- 商業施設の中にある、一人でいくファストフード店などが落ち着く。(中学生)



放課後等デイサービス

- 本音を出せるから。(中学生)

NPO団体が  
運営する居場所

- 自分でいつ誰と何をするか自由に決めることができる。(高校生・大学生)
- 通っていた日本の中学校では、自分だけが外国人で他は全員日本人だったので、話をすることや勉強が難しかった。その後通った、NPO団体が運営する場所では、自分と似た人がいて良いと思った。(中学生)



地区で開催  
されるお楽しみ会

- 地区に住むこどもがゲームなどを楽しめる機会になっている。(中学生)

飲食店・カフェ

- 最初はバーに入るのに勇気がいったが、数時間話して気が合うなと思った。自分と違う世代の人や社会人の先輩から知らない話を聞ける。(大学生・社会人)
- カフェなど、作業している場所・空間を心地よくて「居場所」だと感じることもある。(大学生・社会人)

居場所だと感じないひとからのコメント

スクールカウンセラー

- 週3日くらい学校にスクールカウンセラーが来る。アドバイスはもらえるが、トラブルの相手に対して直接対応はしてくれなかった。(小学生)



公民館

- こどもや30～40代の人がない。おじいちゃんおばあちゃんのための場所で、行こうと思ったこともない。(小学生～高校生)
- おじいちゃんおばあちゃんが多くても、かわいがってくれる優しい人がいたら、公民館にも行きやすくなるかもしれない。地域のつながりが薄いからそういう人がいない。(小学生～高校生)

児童館

- 一度友達と近所の児童館みたいな遊ぶところに行き、トランポリンとかしていたけど、あまり感情が動かなかった感じ。児童館は小学生が行くところみたいな感じがする。(小学生～高校生)

## 居場所と感じるようになった過程・利用するようになったきっかけ

### 話すことができるイベント

自分から話しかけるのは緊張するので、話しかけてもらえるイベントなど、話すきっかけになるイベントがあったら嬉しい。(小学生)

### リコメンド機能

もともと別の内容を調べていて、たまたま「あなたへのおすすめ」などでリコメンドされた場所に行く場合もある。(高校生・大学生)

### 人づての紹介

人づてで「居場所」にたどり着いた。中学生の頃に先生側からいじめられていた時、放課後遊びのボランティアの人に中高生の「居場所」の存在を教えてもらった。(高校生・大学生)

### SNSを通じた関係構築

SNSでいまでも仲良しで旅行したりお家に泊まりにいたりする子がいる。最初に会ったときはお互い緊張して、淡々と話しているだけだったけど、何回か会ううちに、SNSでも書いていないパーソナルなことを話して「SNSのフォロワー」から「友達」に切り替わった。同じものが好きだと分かっているから怖くない。(大学生・社会人)

### 施設での出会い

いろいろな生い立ちがあって今は親と離れて暮らしているが、社会的養護の子たちと施設の中で出会い、その中で仲良くなり、そういう子たちとご飯いたり、遊んだり、自分のことを話すようになると、自分はひとりじゃないんだと思い、その空間が「居場所」になる。(大学生・社会人)

### インターネットでの検索

自分で「こういうところに行きたい」という意識をもって、インターネットを活用して「居場所」を探せたらいいと思う。(高校生・大学生)



## 「居場所」がない、なくなったと思うとき

### 学校と家以外の居場所の必要性

「居場所」が一つしかないと自分がどうしてよいかわからなくなる。家族に本音が話せない人もいるので、学校と家以外の第3の場所がなくなり、気持ちが落ちてしまう子が多いと思う。(中高生)

### 恒常的な存在ではない

自分の知らない情報で話が盛り上がっているときは自分の存在意義を見出せず「居場所」ではないと感じるため、恒常的に存在するわけではない。(高校生・大学生)

### 新しい学校への入学

新しい学校に通うことになったとき、これまで築いてきた関係が途切れて「居場所」がなくなったと感じた。また、新しい学校では既存のコミュニティに自分から入っていく必要があり難しいと感じている。(高校生・大学生)

### 人の目を気にしてしまう

「居場所」といわれる場所にいったとき、よくきている子たちがわーっと話していると、疎外感や寂しさを感じ、自分のことをどこまで開示していいのかわからなくなる。人の目を気にし始めちゃうと「居場所」じゃない。(大学生・社会人)

### 学校のクラスに苦手な人がいる

苦手な人が学校で同じクラスにしていると「居場所」だと感じなかった。(中高生)

### 他の人にどう思われているかを考えてしまう

自分が他人にどう思われているかと考えているときはまだ「居場所」になっていないと思う。自分の発言がどう思われるか心配することなく打ち解けられている状態に自分で作り上げていくことが必要。(高校生・大学生)

居場所に行く目的

話したり集まったりすること以外の目的がある方がよい。目的が何個かあれば、一つの目的が実現できていなくても、それ以外の目的が達成できていることで「居場所」としてあり続けられる。（高校生・大学生）



自分自身の気持ち・存在意義

自分の存在意義を自分の中か他人の中に見いだせる場所。自分の中というのは、やっていて楽しかったり、勉強になったりするなどであり、他人の中というのは、自分がいることで他人が楽しんでくれたり、他人の仕事に自分が必要と感ずることができたりすること。（高校生・大学生）



「自分」として見られているか、「大勢の中のひとり」として見られているか、によって「居場所」かどうかが変わる。前者のほうが「居場所」だと感じる。（大学生・社会人）

安心したり、わくわくしたり、もっとこうしたいという気持ちを感じられたりする場所。（大学生・社会人）

選択ができること

「居場所」が一か所しかないところ「居場所」と感じなくなった時、行き場を失ってしまうので、逃げ道として居心地の良いと感じる場所は何か所があった方がよいと思う。（高校生・大学生）

居心地がいいな、と感じる場所は日によってちがう。ひといるのが心地よいときと、一人でいたいときがある。自分で選べて、その場所に行けると思える場所がもっと増えたらいいと思う。選択肢が多いほうが、ぱっと思い浮かびやすい。（大学生・社会人）





コミュニケーションのありかた

友達に相談をして「そうなんだ」と受け止めてくれたとき。(小学生)



何でも肯定してくれるAIがある。承認されたという気持ちがある一方で人にははなせないこともAIに対しては話せる。(小学生)

自分の好きなことを否定されないと話しやすい。(中高生)

バーでは、意見が対立したとしても、それはそれとしておきつつ、意見を言い合える関係がある。(大学生・社会人)

長く一緒にいる人や自分のことをわかってくれている人が、自分に話しかけてくれたり、話を聞いてくれたりする場所は「居場所」だと感じる。(中高生)



年代

ボランティア先は私の年代の人はあまりなくて、大学生が多い。考えがすごく大人で、余裕がある感じ。高校生だと自分の話を聞いてほしいというのが多いけど、大学生だと私の話を聞いてくれたりするのがいい。(中高生)



同年代の人と話す機会がある場所がいい。年上の人と話すのも楽しいが、同年代だからこそ話せることがあるし、流行っていることも年代によって違う。(小学生～高校生)

同年代が苦手な小さい子どもか自分よりも少し年上の20～25歳くらいの若い大人がいるところが好き。(高校生・大学生)



自分との関係性



自分を知っている人だと逆に話しづらいこともある。同年代の人だけでなく、幅広い年代の人と話せる機会があるといいかなと思った。(小学生～高校生)

学校だと自分のキャラが確立しているから、別の自分を出せる機会があるとよい。(小学生～高校生)



周りの人間と適度に距離を置けることも必要だと思う。(高校生・大学生)

居場所にいるひと（大人・スタッフ）

部屋にスタッフがいて見守ってくれるといい。  
こどもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けてほしい。（小学生）

優しい人、良く意見をきいてくれる人、ダメなことはだめとってくれる人であれば大人がいてもいい。（小学生）

方向性を決めつけない大人が良い。大人の経験論が大事な時もあるが、こどもの未来の方向性はこどもの主体性に任せてほしい。こどもがやりたいことを尊重してくれる大人が良い。（中学生）



危ないことが起きたときに止めてくれる役割を担う大人は必要なものの、大人があまり干渉しないほうが良いと思う。（高校生・大学生）

大人はいるけど、主に見守りとして何かあった時に助けるくらいの干渉しすぎない距離感が良い。（中学生）

専門的な知識を教えてくれたりアドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。（小学生）

居場所にいるひと（こども・利用者）

どの学年の人もいれる場所だと、低学年の子たちが騒がしく宿題や勉強に集中できないので、同学年どうして集まれる場所があったら嬉しい。（小学生）

親と一緒に「早く帰るよ」と言われて嫌な気持ちになるから、一人で行って一人で過ごせる場所がほしい。（小学生）

親と話す内容と友達と話す内容は違うから、それを親に知られたくない。（小学生）

こどもだけで話せる場所が欲しい。（小学生）



居場所のルール・雰囲気

静かに過ごす場所と、ワイワイ過ごす場所を選べるといい。（小学生～高校生）



いじめが無い場所がいい。ルールを守れない人が一人いると「あの人ルールを破っているなら自分も」という風になって、悪い循環が起きてしまう。（小学生）

一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいと思う。（中学生）

最近は屋外以外では私語禁止が多いので、もう少しこどものための自由にできる場所があっても良いと思う。（中学生）

## ルール

学校のルールで「校区外に一人で行ってはいけない」というものがあるため、**校区外だとこどもだけで行きづらい**。(小学生)



## 広報・宣伝

一歩の勇気を踏み出そうというとき、今までになかったものが突然現れると「怖い」「これでいいのかな」という感覚になると思う。**テレビやコマーシャルみたいに、普段生活する中で目につく、聞こえる場所にあれば、抵抗感が薄れていく**のかなと思う。(大学生・社会人)

こども家庭庁が**電車広告**などで「こんな「居場所」があるよ」と周知してくれるとよいと思う。(高校生・大学生)



夏休み中は公民館で勉強ができたり、こども食堂があつたりと思う。しかし**何をしているのか具体的にわからず、最初の一步が踏み出せない**。(中高生)

国が「居場所」をつくる際は、「居場所」があることを周知して**実際の参加レポートを公表するなど広報が重要**だと思った。(中高生)

**ロゴマーク**など、目に見える視覚情報として、だれでも入っていいことがわかりやすく伝えられるといいなと思う。(大学生・社会人)



**定時高校や、不登校の学生向けに情報を伝えることや、学校のホームルームや家庭科の授業、大学の中などで紹介**することを検討してほしい。SNSで広告を流してもよい。手軽に手の届く範囲に広告があると、みんな利用すると思う。(大学生・社会人)

NPO法人などは「居場所」を作っていたとしても、金銭的な理由で発信力が弱く自分たちが見つけづらいと思う。**自分が住んでいる地域等信頼性が高い組織がHPなどで紹介**してくれると行きやすい。(高校生・大学生)

## こども・若者へのアンケート調査概要

### 留意事項

回答者の属性の偏りをなくして実施したものではなく、全国の母集団より回答者を無作為抽出したものでもないため、本調査の結果が、こども・若者の居場所の傾向を代表するものではない。

### 目的

- ・こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）を策定するにあたり、具体的にどのような場を居場所と感じているのか、またその場に何を求めているのかなどを通じて、こどもたちの視点に立った居場所の視点や理念等を取りまとめるために実施。
- ・全国の母集団より回答者を無作為抽出での実施ではないため、こども・若者の居場所の傾向等を把握するのではなく、広くこども・若者の意見を収集することを目的とする。

### 調査対象

おおむね6～30歳

※6～18歳を主な対象と想定するが、調査対象となる居場所を利用する未就学児や、18歳以上が対象に含まれることも想定。

### 調査方法

- ・Microsoft Formsを活用し、こども家庭庁のホームページ上に掲載し、ウェブ調査として実施。
- ・回答者の年齢等への配慮から、①中高生を想定した通常版、②低年齢の児童を想定したやさしい日本語版の2種類を作成し、回答者に選択してもらった。
- ・回答者の負担軽減と、回収率向上の観点から、こどもが5分程度で回答できるボリューム感で調整。

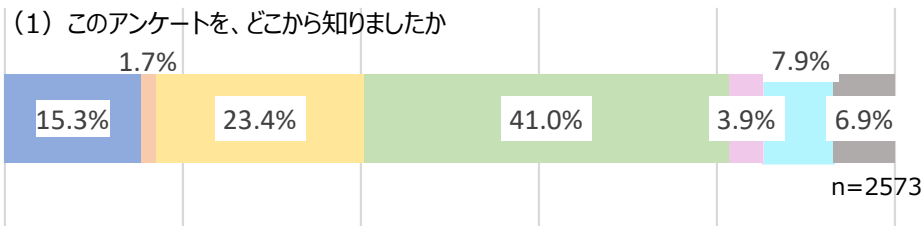
### 調査内容

- ・回答者属性（調査をどこから知ったか、年齢、性別、住んでいる地域）、居場所の必要性、居場所の有無
- ・利用している居場所について、どのような居場所か、居場所の利用前後での変化、居場所への要望等
- ・居場所を利用し始めたきっかけ、どのような居場所であれば、利用したいか

## 調査結果 - 回答者の属性 -

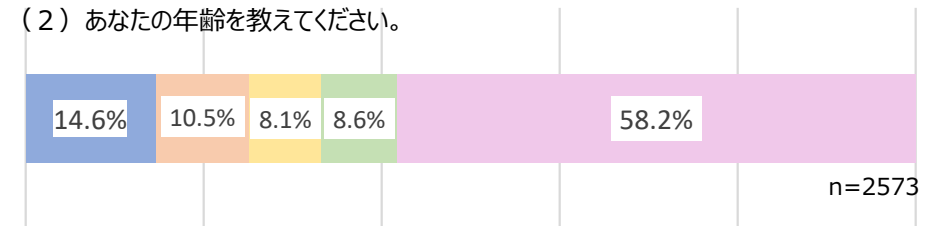
- ・計2,573名からの回答を得た。\* すべて匿名であり、メールアドレス等の個人情報は取得していない
- ・回答者の属性は、以下の通りである。
- ・回答者の属性の偏りをなくして実施したものではなく、全国の母集団より回答者を無作為抽出したものであるため、本調査の結果が、こども・若者の居場所の傾向を代表するものではない。広くこども・若者の意見を収集することを目的としている。

### アンケートの入手元



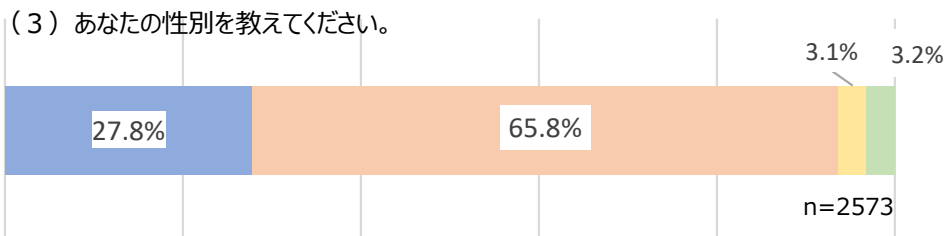
- 保護者から
- 通っている施設・団体の大人から
- SNS (Twitter、instagramなど) から
- 子ども家庭庁のホームページから
- 子ども若者★いけんぶらすから
- その他
- 学校の先生から

### 回答者の年齢



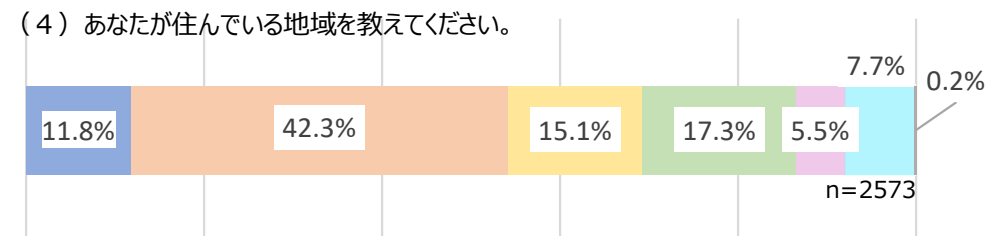
- ～9才
- 10～12才
- 13～15才
- 16～18才
- 19才以上 (おおむね30才まで)

### 回答者の性別



- 男
- 女
- どちらともいえない
- 答えたくない

### 回答者の居住地



- 北海道・東北地方
- 関東地方
- 中部地方
- 近畿地方
- 中国・四国地方
- 九州地方
- 海外

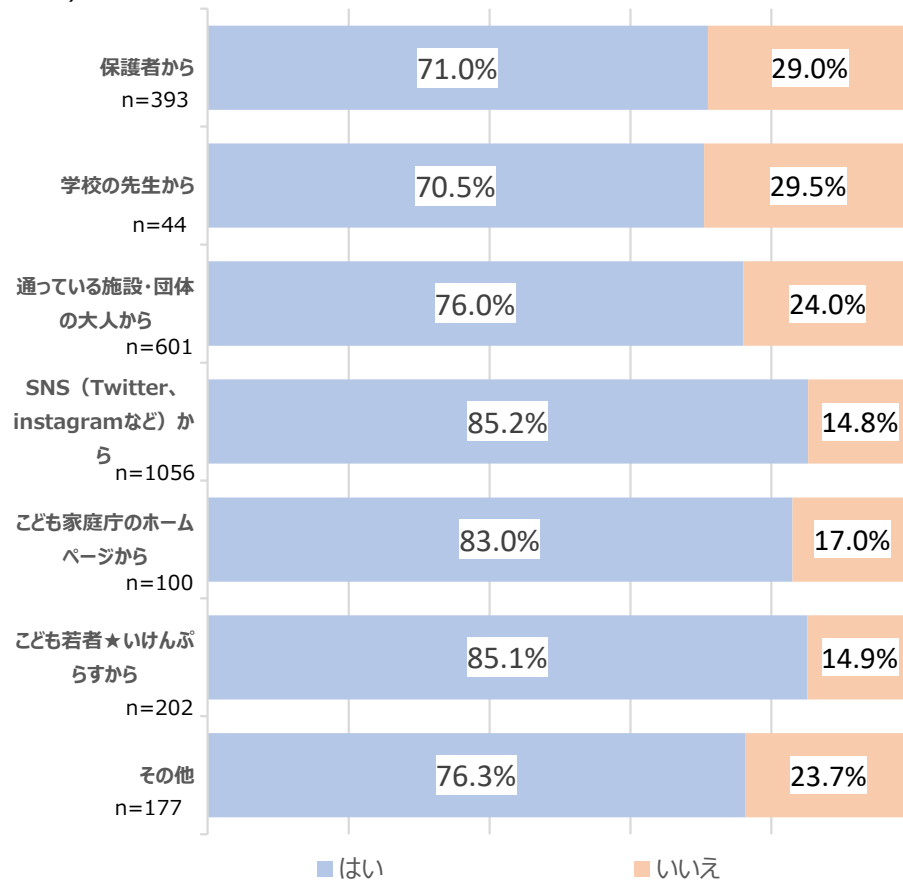


## 調査結果 - 居場所のニーズ（アンケートの入手元別） -

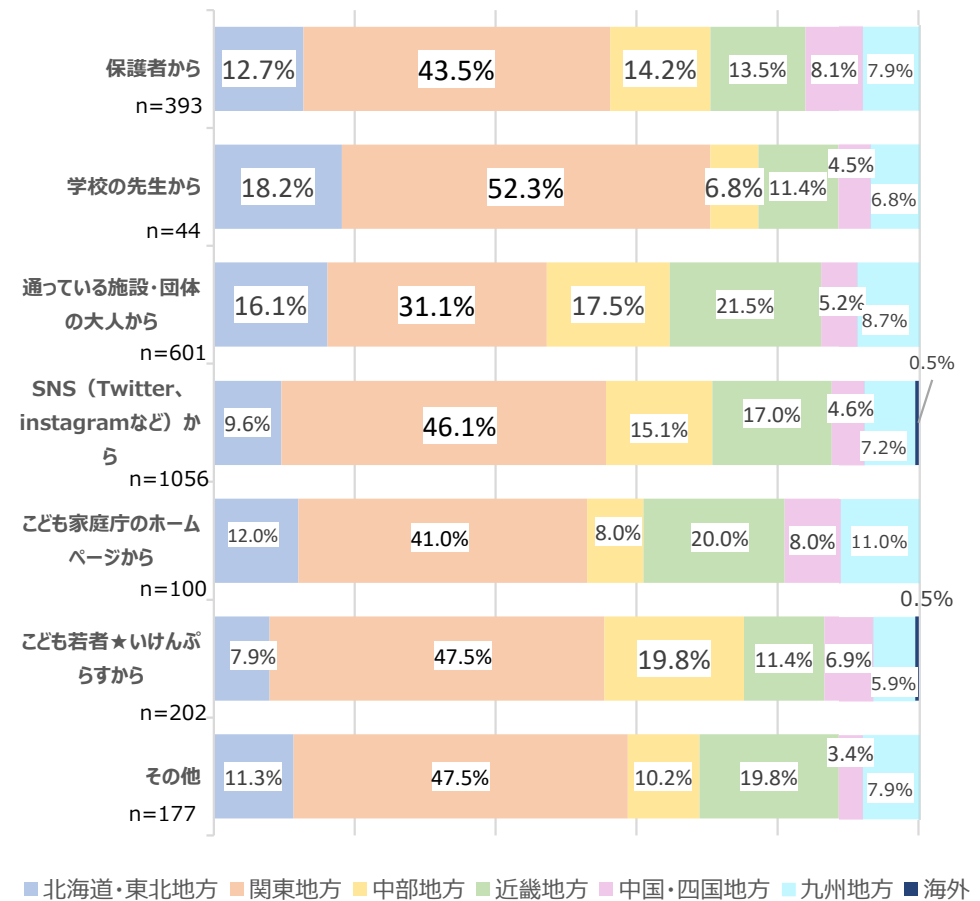
- ・「SNS（Twitter、instagramなど）から」「こども家庭庁のホームページから」といったインターネットを経由した回答において、こども・若者の居場所のニーズが高い傾向にあった。
- ・ただし、上記経由の回答の約8~9割は、19歳以上の若者が占めており（次スライド）、年齢による影響を受けている可能性がある。

### アンケートの入手元×居場所のニーズ

(5) あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。



### アンケート入手元別×居住地域

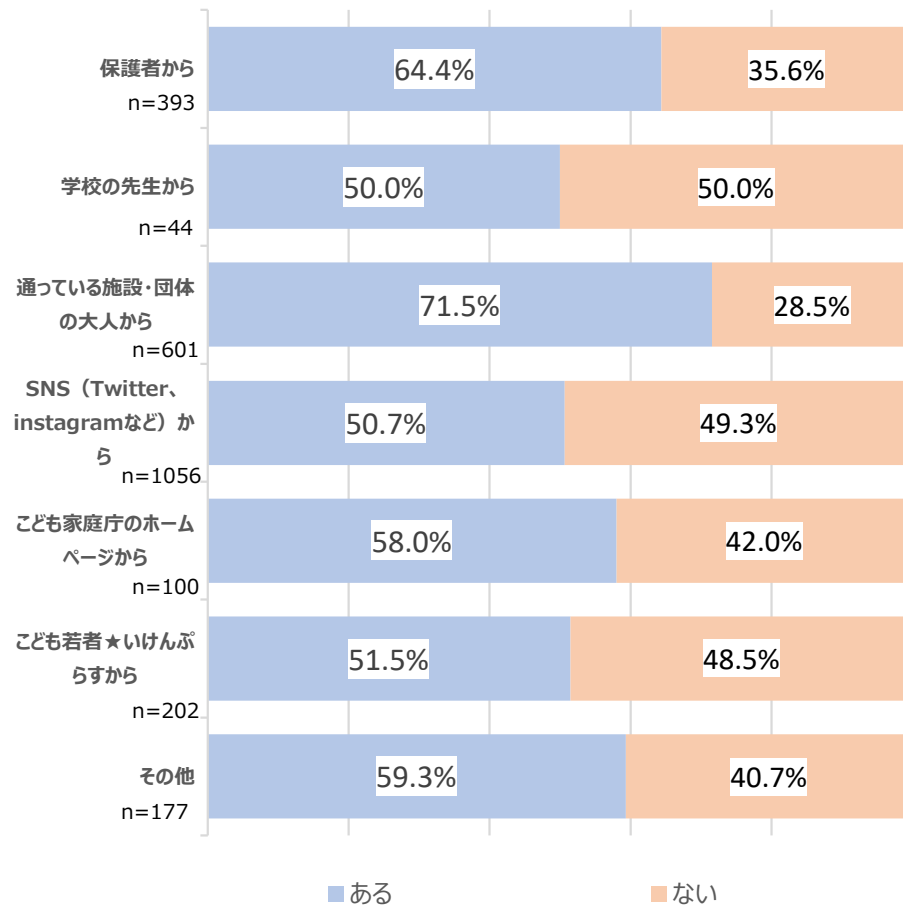


## 調査結果 - 居場所の有無（アンケートの入手元別）

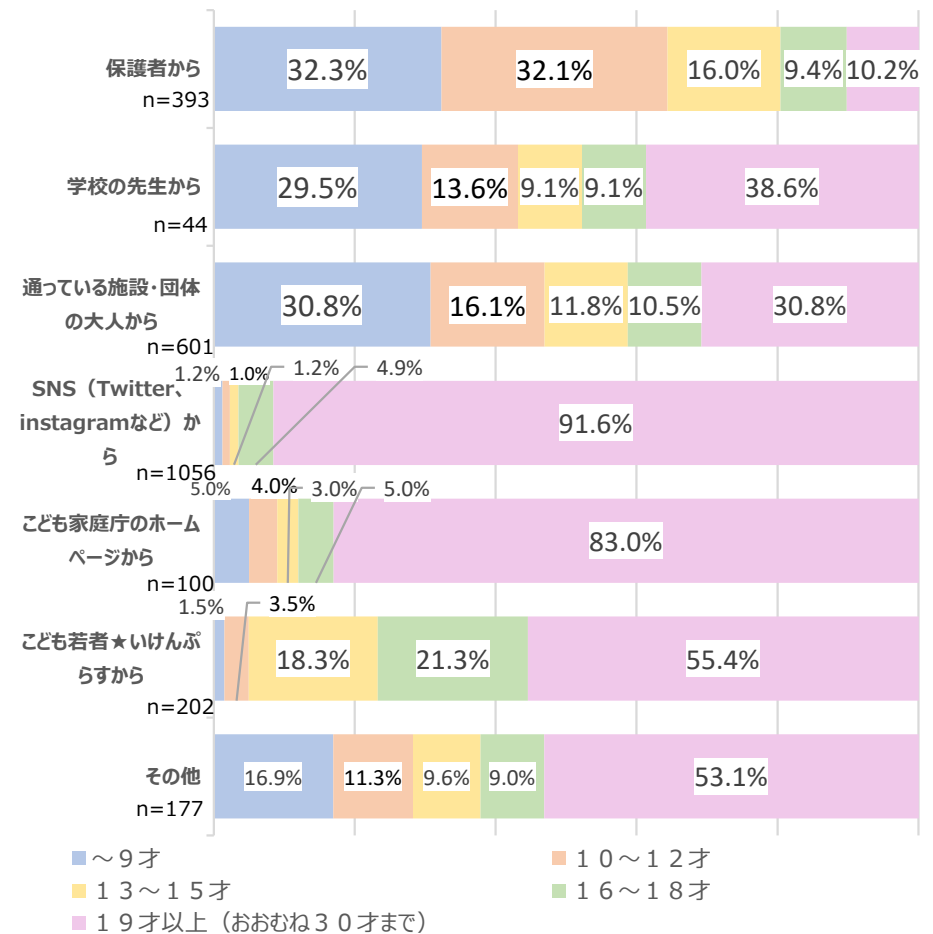
- ・通っている施設・団体の大人から入手したこども・若者は、「居場所がある」と回答した割合が多く、その場が居場所になっている可能性が高い。
- ・SNSやこども家庭庁のホームページからといったインターネットから回答したこども・若者の年齢は、19歳以上が多い。

### アンケートの入手元×居場所の有無

(6) あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校(授業や部活、クラブ活動)以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。



### アンケートの入手元×年齢

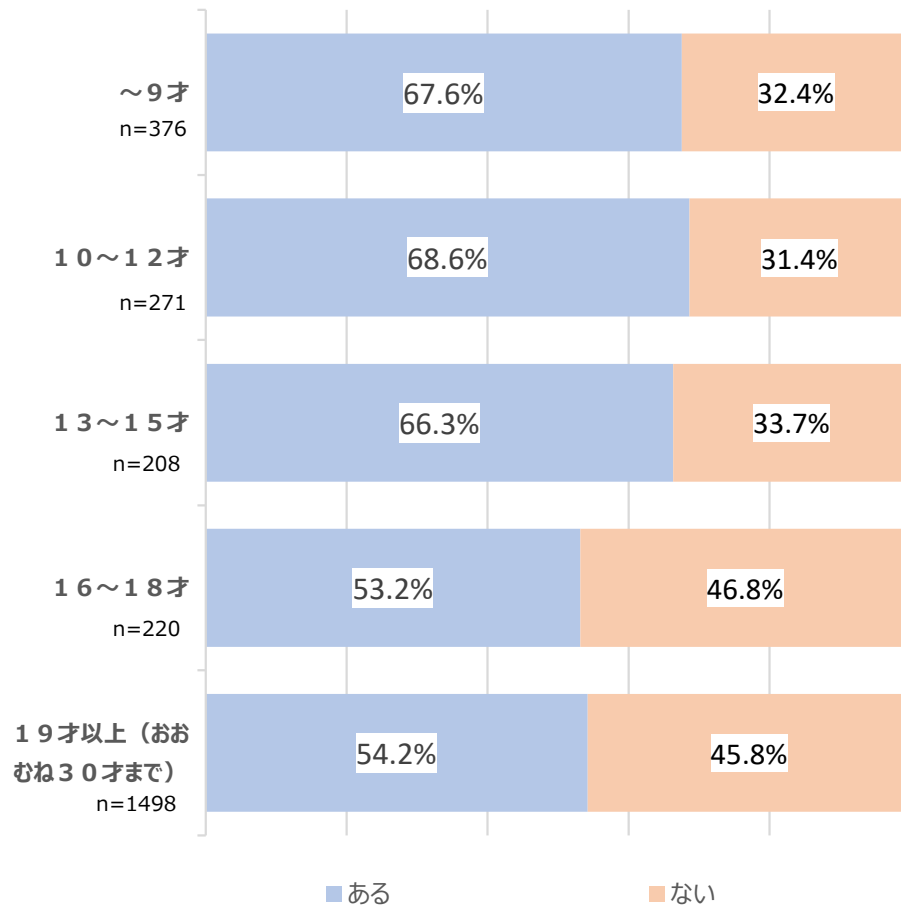


## 調査結果 - 居場所の有無 (年齢別) -

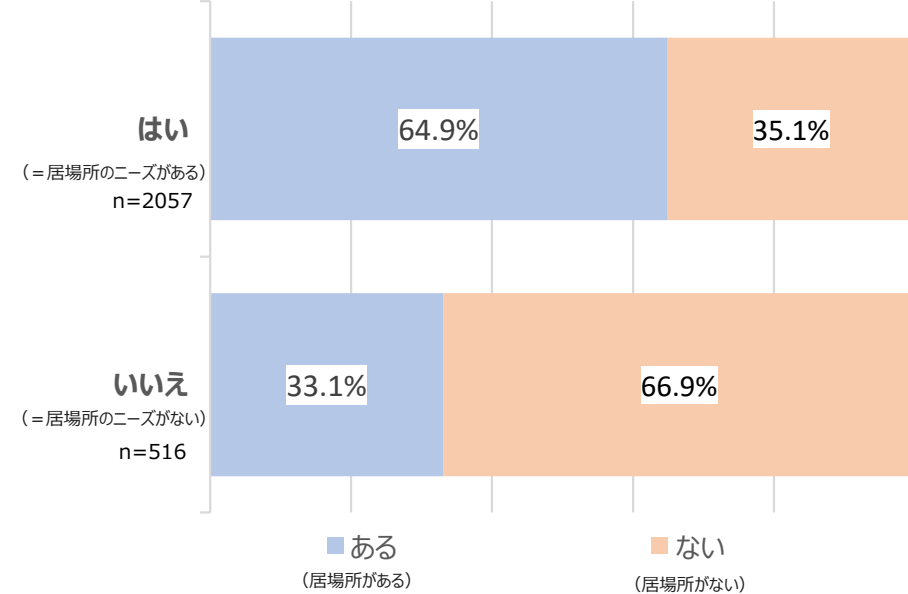
- ・16歳以上の子ども・若者は、それ以外の年齢に比べると「居場所がない」と回答する割合が高い傾向にあった。
- ・居場所のニーズがあると回答した子ども・若者のうち、居場所がないと回答した割合は約3割であった。
- ・ただし、回答のサンプルには偏りがあるため、この結果をもって子どもの居場所の傾向を判断できるものではなく、回答の解釈には注意が必要である。

### 年齢×居場所の有無

(6) あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校(授業や部活、クラブ活動)以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。



### 居場所のニーズ×居場所の有無



#### 【居場所のニーズ】

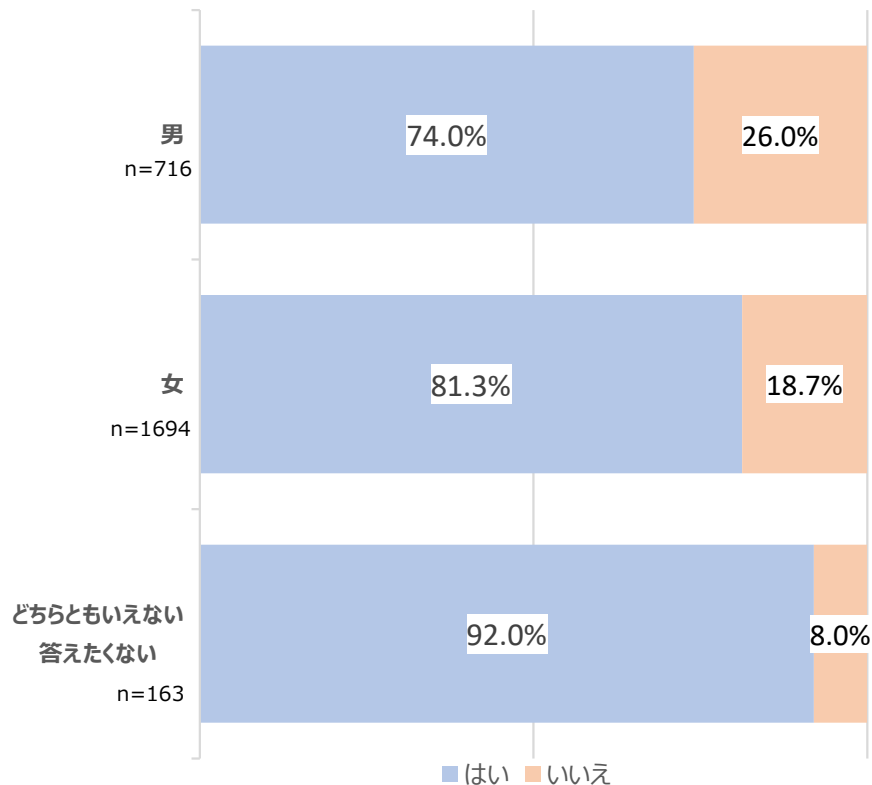
あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。

## 調査結果 - 居場所の有無 (性別) -

- ・性別について「女」と回答したこども・若者は、「男」と回答したものと比べ、居場所がほしいと回答する割合が高かった。
- ・性別について「男」と回答したこども・若者は、「女」と回答したものと比べ、居場所があると回答する割合が高かった。
- ・ただし、回答のサンプルには偏りがあるため、この結果をもってこどもの居場所の傾向を判断できるものではなく、回答の解釈には注意が必要である。

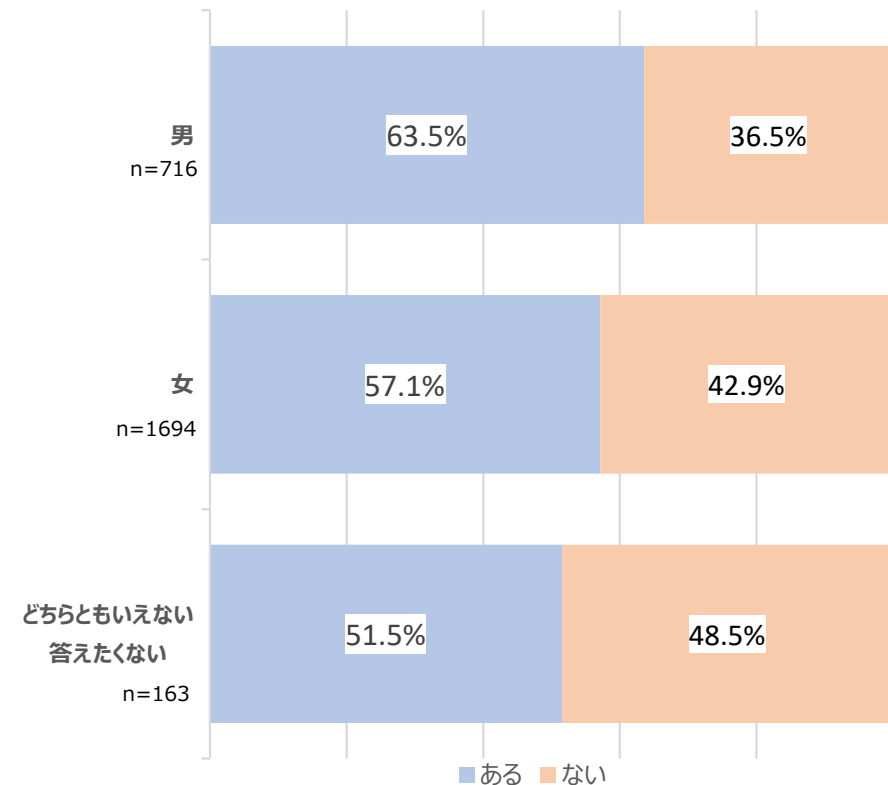
### 性別×居場所のニーズ

(5) あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。



### 性別×居場所の有無

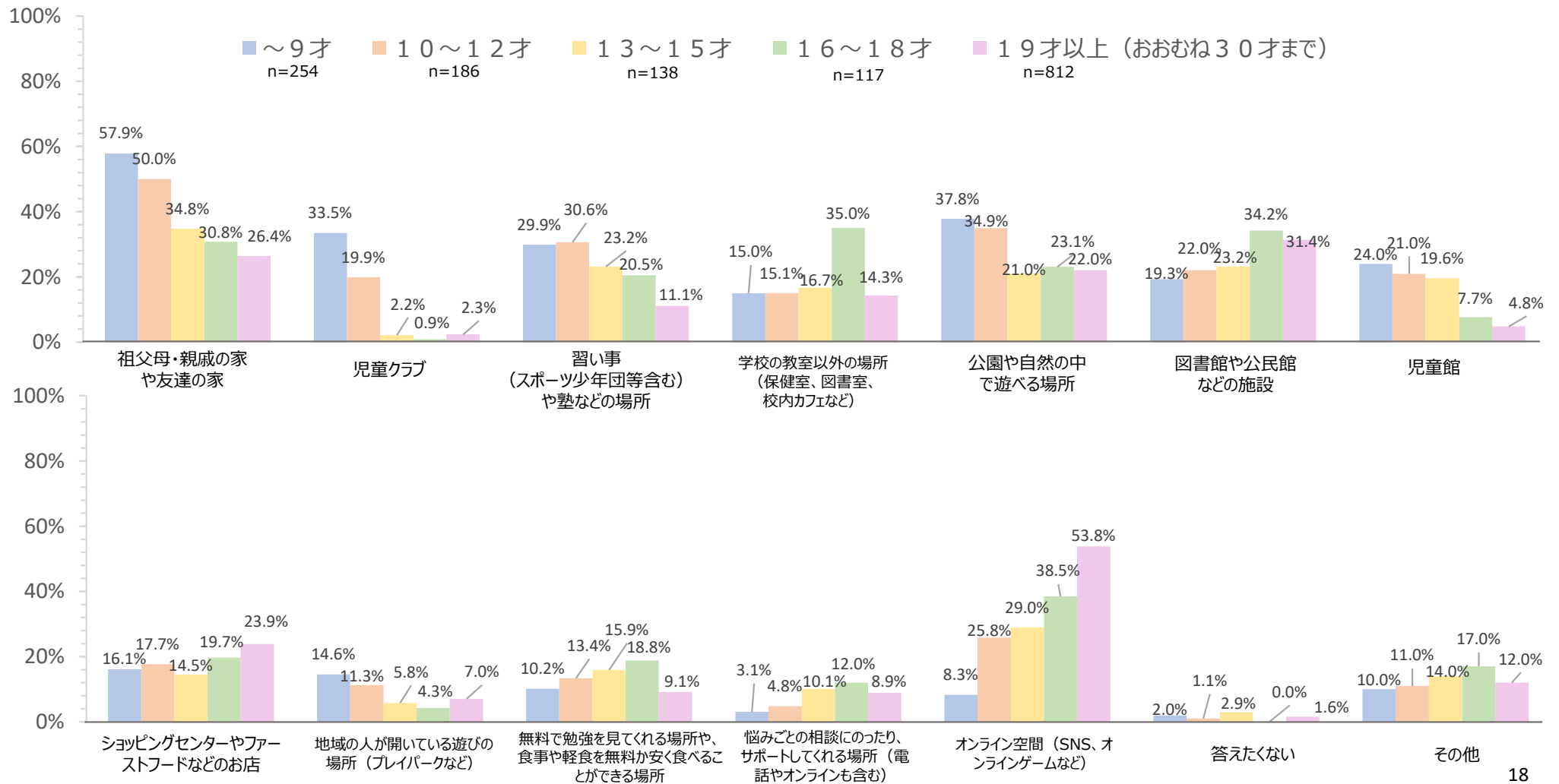
(6) あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。



## 調査結果 - 居場所があると回答したこども・若者が、どのような場を居場所と感じているか -

- ・年齢区分によらず、「祖父母・親戚の家や友達の家」と回答した割合が高い傾向にある。
- ・年齢が上がるにつれて、オンライン空間を居場所と感じる割合は高くなる傾向にある。
- ・図書館や公民館、児童館など公共施設を居場所と感じる割合も高い傾向にある。

### 年齢別×居場所と感じている場（物理的にどのような場か）「(居場所があると回答した場合)そこは、どのような場所ですか。」\*複数回答

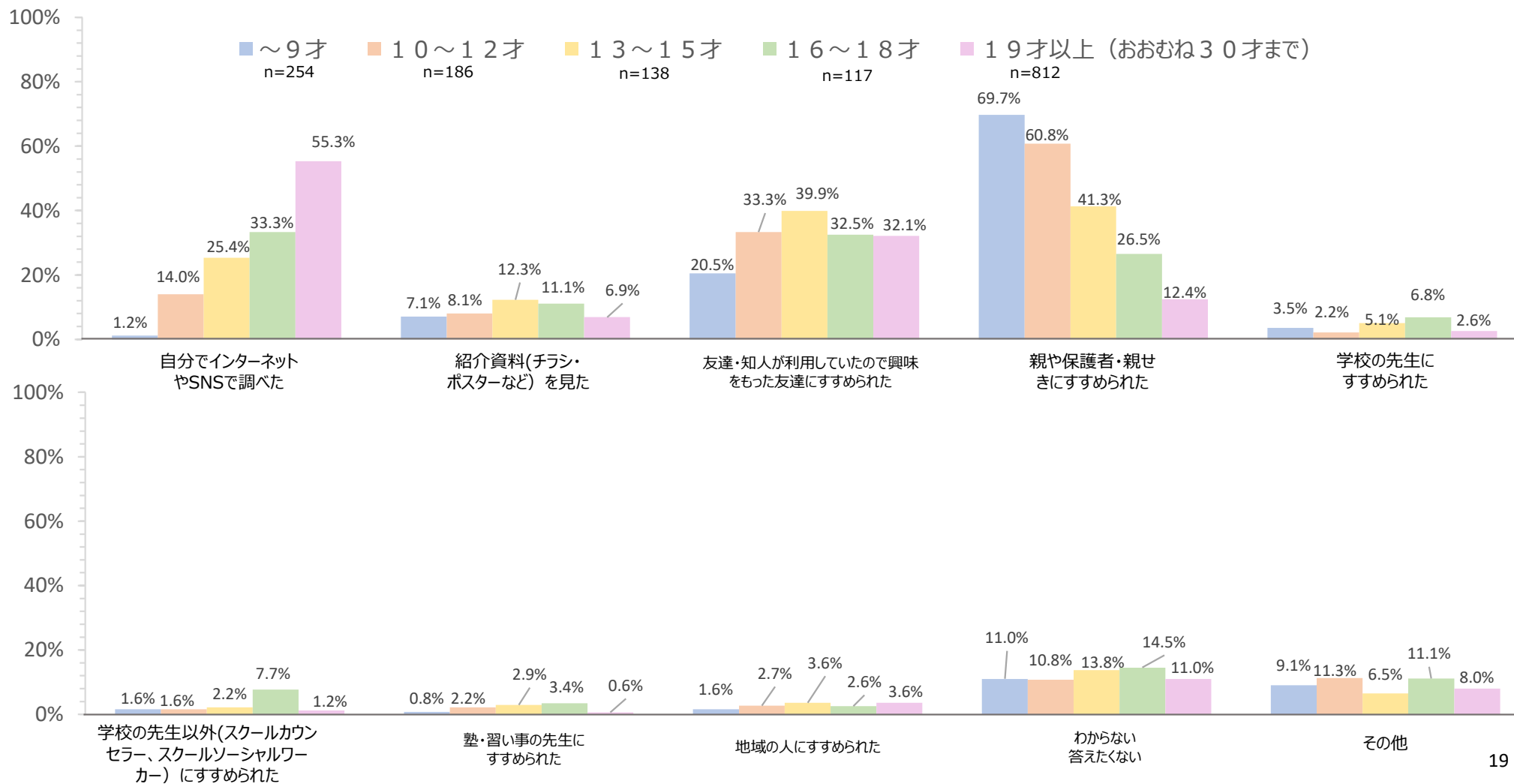




## 調査結果 - 居場所があると回答した子ども・若者が、どのようなきっかけでその場を利用し始めたか

- ・「自分でインターネットやSNSで調べた」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあった。
- ・一方で、「親や保護者・親せきにすすめられた」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて低くなる傾向にあった。

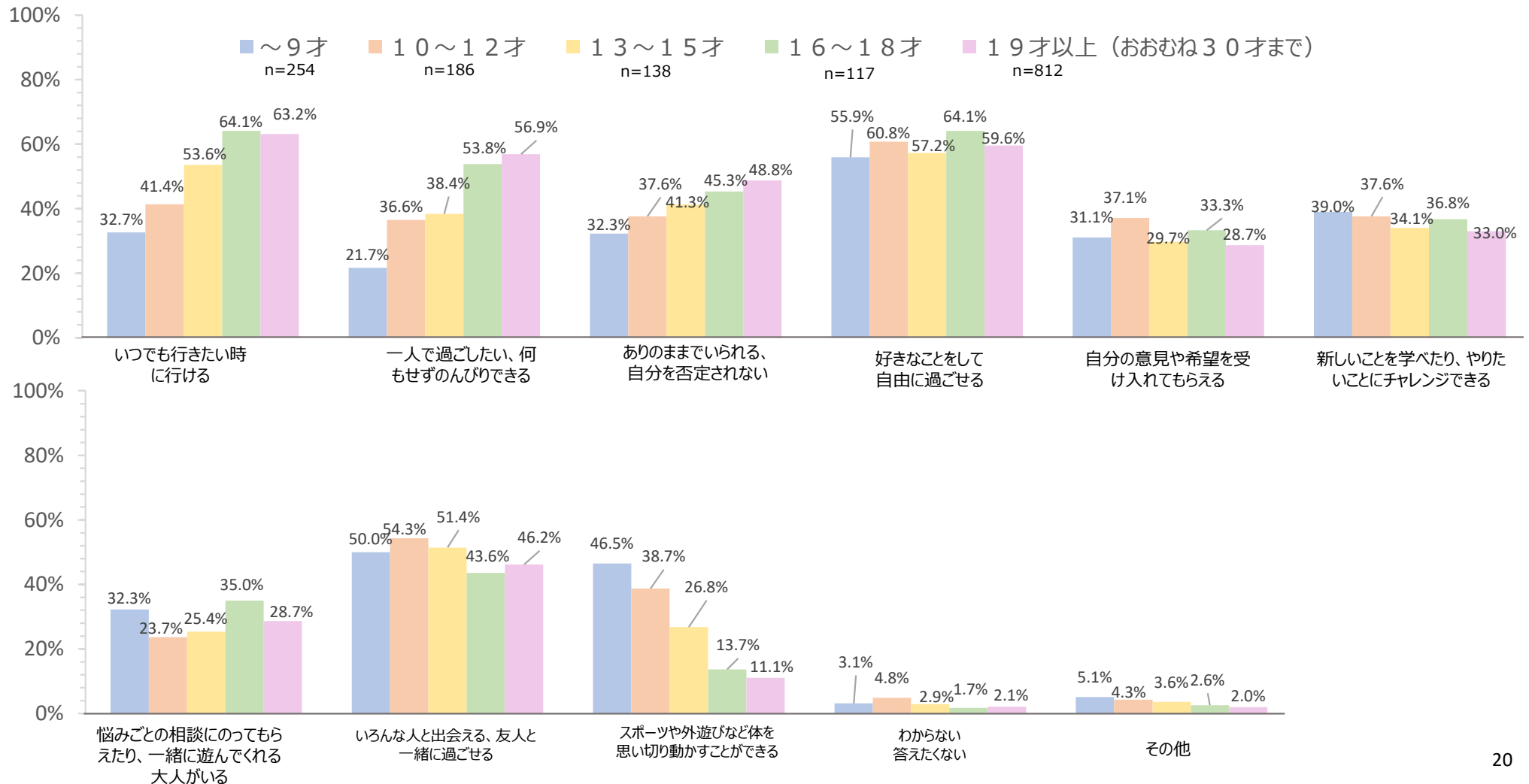
### 年齢別×きっかけ 「(居場所があると回答した場合)そこに行き始めたきっかけ・理由は何ですか。」



## 調査結果 - 居場所があると回答したこども・若者が、どのような場を居場所と感じているか -

・「好きなことをして自由に過ごせる」「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」と回答した割合は高い傾向にあった。  
 ・「いつでも行きたい時に行ける」「一人で過ごしたい、何もせずのんびりできる」「ありのままでいられる、自分を否定されない」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあった。「体を思い切り動かすことができる」割合は、年齢が上がるにつれて低くなる傾向にあった。

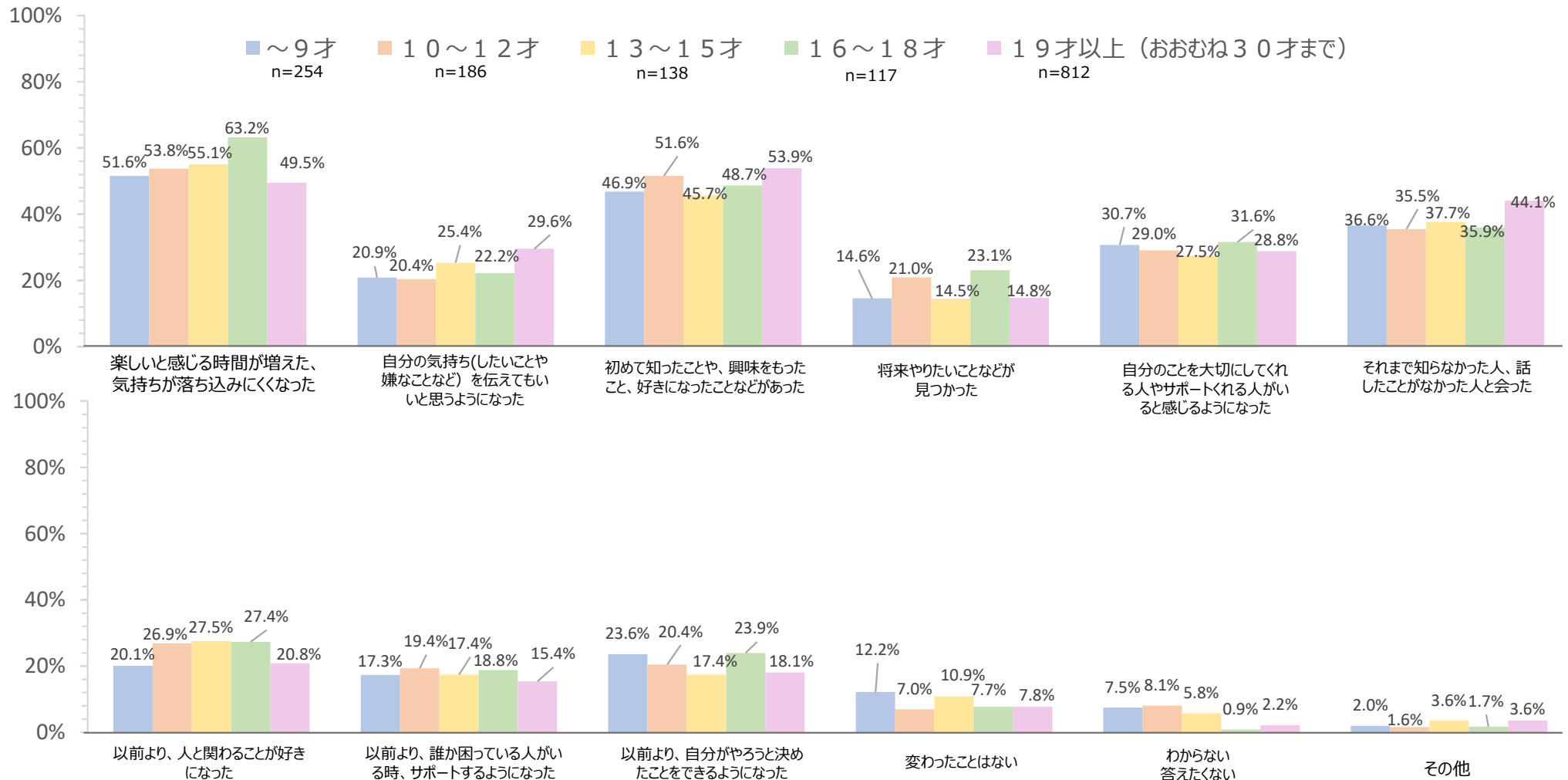
年齢別×居場所と感じている場（機能的にどのような場か）「(居場所があると回答した場合)そこは、どのような場所ですか。」\*複数回答



## 調査結果 - 居場所があると回答したこども・若者における、居場所の利用前後での変化

- ・年齢区分によらず、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」と回答した割合が最も高く、次いで、「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあつた」と回答した割合が高かつた。
- ・どの年齢区分においても、上記項目以外の変化を回答している割合は一定程度あり、居場所の利用前後でのこども・若者の変化は多様である。

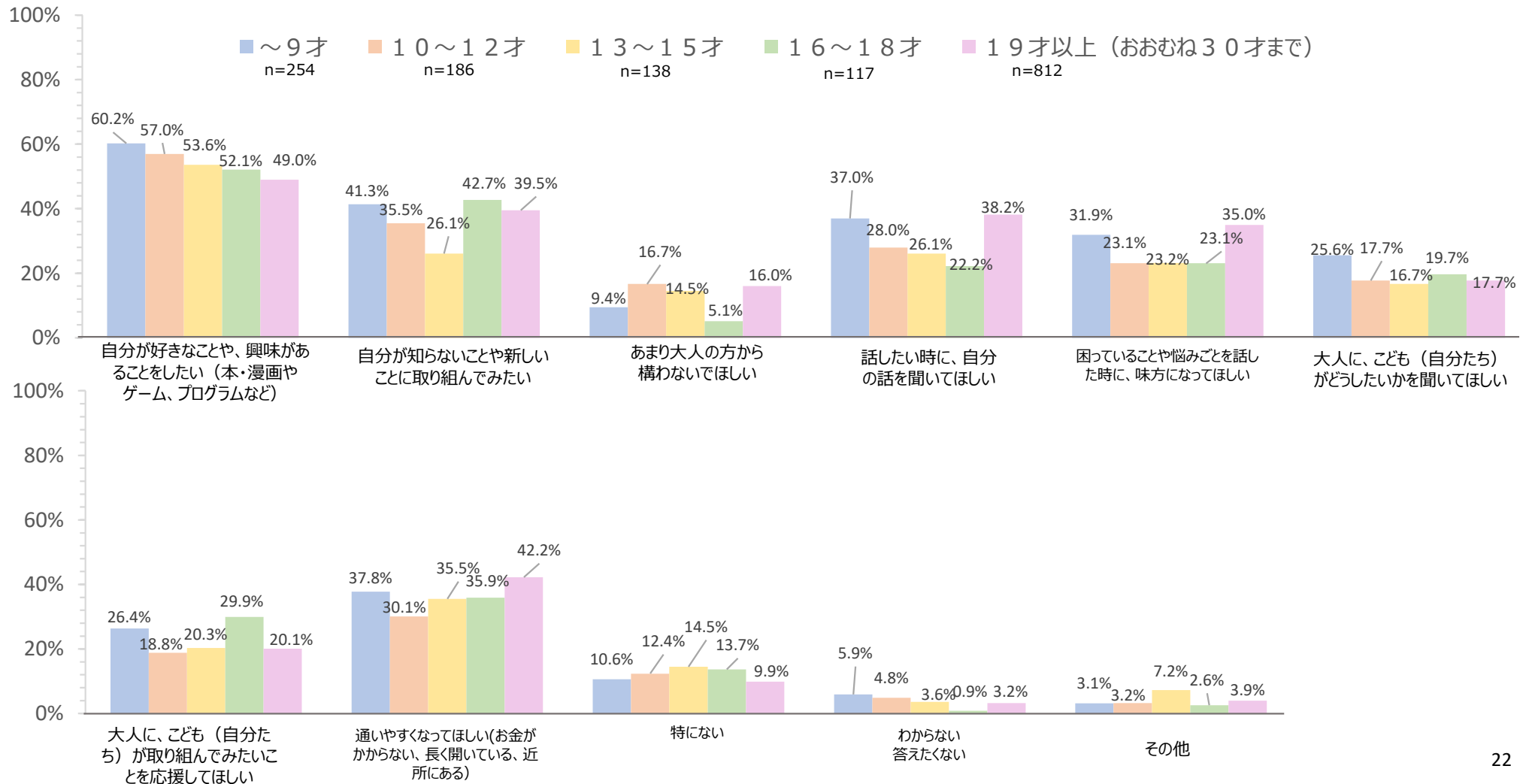
### 年齢別×居場所の利用前後での変化「(居場所があると回答した場合)そこに行くようになって、変わったことがありますか。」\*複数回答



## 調査結果 - 居場所があると回答したこども・若者における、居場所への要望 -

- ・年齢区分によらず、「自分が好きなことや、興味があることをしたい」と回答した割合が最も高かった。
- ・次いで、「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」、「通いやすくなってほしい」と回答した割合も高い傾向にある。

年齢別×居場所への要望「(居場所があると回答した場合)居場所ですべてやりたいことや、もっとこうだったらいいのと思うことはありますか。」\*複数回答

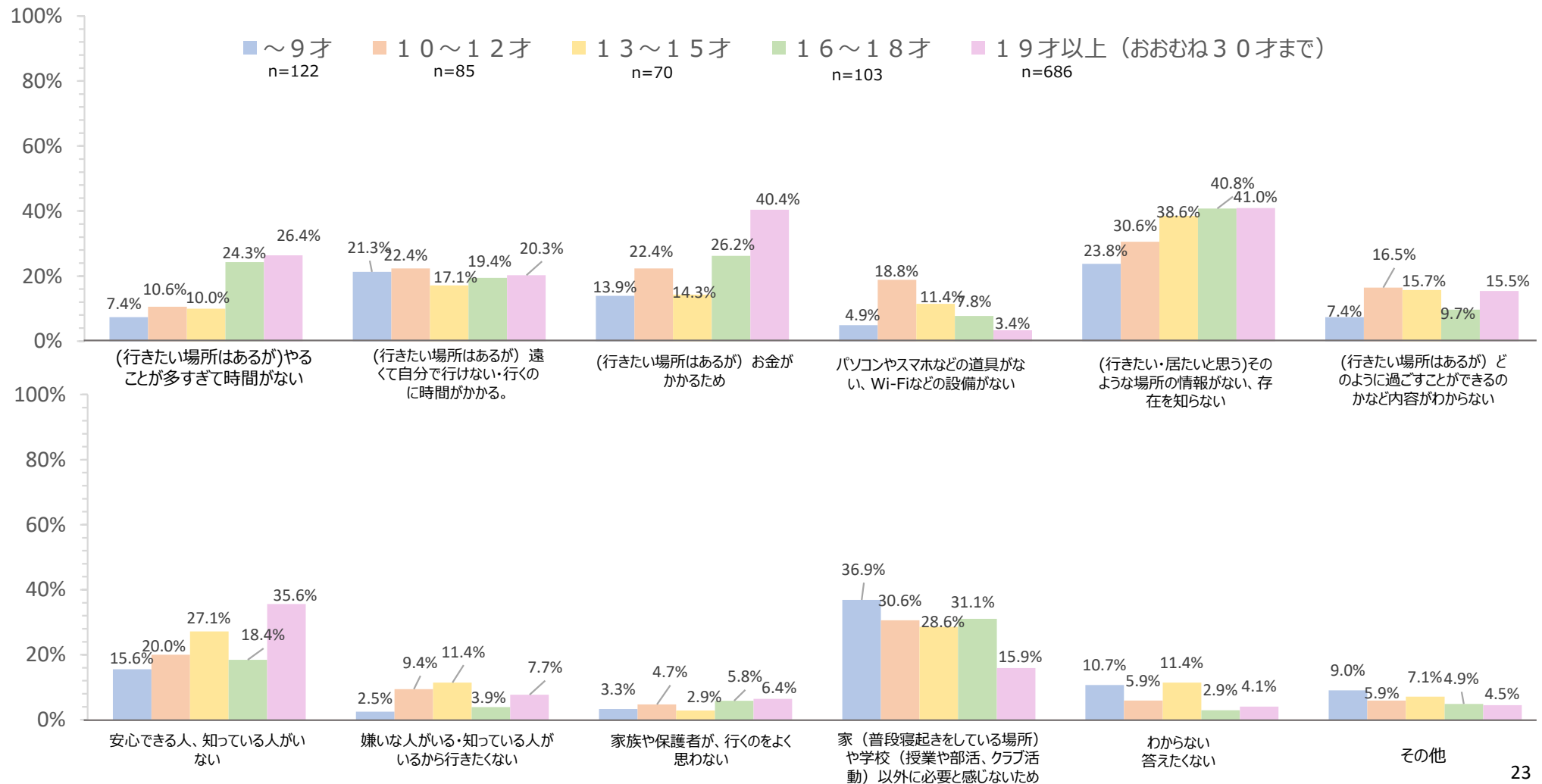


## 調査結果 - 居場所がないと回答したこども・若者における、居場所がない理由

- ・ない理由として、「(行きたい・居たいと思う)そのような場所の情報がない、存在を知らない」と回答した割合は、どの年齢層でも高かった。
- ・次いで、「家や学校以外に必要と感じないため」と回答した割合が高かった。

### 年齢別×居場所がない理由

「(居場所がないと回答した場合) 家(普段寝起きしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外に、「ここに居たい」と感じる場所がない理由を教えてください\*複数回答





## 調査結果 - 居場所がないと回答したこども・若者における、利用したい居場所

- ・「いつでも行きたい時に行ける」「好きなことをして自由に過ごせる」を回答した割合は、どの年齢においても高い傾向にある
- ・「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」「ありのままでいられる、自分を否定されない」を回答した割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。

### 年齢別×利用したい居場所 「(居場所がないと回答した場合) あなたは、どのような場所であれば行ってみたいと思いますか。\*複数回答

